

2021年3月期 決算電話説明会 質疑応答

実施日	： 2021年4月28日（水）
当社説明者	： 代表取締役社長（兼）COO 上西 京一郎 取締役常務執行役員 横田 明宜 常務執行役員 吉田 謙次 IRグループマネージャー 菅原 海（司会）

以下は、説明会における主な質疑応答を取りまとめたものです。

- Q1) ガイドラインによる運営体制の制限がある中で、パークの新鮮さを保つための戦略を教えてください。
- A1) ゲストの安全安心を担保しながらも、新しい魅力を提供することが大切であると考えている。足もとではファンタジーランド・フォレストシアターをオープンしており、2021年度には東京ディズニーリゾート・トイ・ストーリーホテルの開業や、東京ディズニーシー20周年をフックとしたナイトエンターテインメントなど含め、魅力的なコンテンツが控えている。導入時期の検討は必要だが、遂行していきたい。
- Q2) デジタル戦略に関する進捗や成果について、また、今後の方向性について伺いたい。
- A2) 東京ディズニーリゾート・アプリのサービス拡充はゲストの体験価値向上に寄与しており、引き続き強化していきたい。今後については、デジタル戦略部が中心となってデータ活用などにも取り組んでいきたい。
- Q3) アフターコロナにおける、入園者数やゲスト1人当たり売上高の考え方について、現時点で決まっていることがあれば教えてください。
- A3) 現時点でお答えできることはない。ただ新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、入園者数に比重を置いた収益構造に対してリスクを感じており、入園者数とゲスト1人当たり売上高の最適なバランスを検討している。次期中期経営計画に向けて議論を深めていきたい。
- Q4) ESG 戦略を遂行していく中で、株主投資家への利益の還元が小さくなる可能性はあるか。
- A4) 長期持続的な利益成長をするために ESG に取り組んでいく。したがって、株主投資家への利益の還元が縮小することではないと考えている。
- Q5) 上西社長の考える10年後や20年後のオリエンタルランドについて教えてください。
- A5) オリエンタルランドは「人々が喜ぶこと、幸せを感じることを提供したい」という想いを持っている集団であり、コア事業である東京ディズニーリゾートの提供価値を更に向上させ、ゲストが今まで以上に幸せを感じる場所であり続けてほしい。そしてオリエンタルランドが永続的に人々に幸せを提供するために、企業理念に基づいた新たな柱となる新規事業を創出していることを期待している。

- Q6) 新社長が在任期間中に成し遂げたいことを教えてほしい。
- A6) まずは、早期に黒字化を達成することが急務だと考えている。また、現在開発中の東京ディズニーシー大規模拡張プロジェクトを開業させ、OLCグループの新たな成長を見出せるような状況にすることが最大の使命である。
- Q7) 早期の黒字化達成に必要な前提を教えてほしい。
- A7) 入園者数に制限がある中で、2021年3月期の第3四半期に黒字化した実績がある。その実績を引き継げるよう、引き続き不要不急コストの精査や入園者数水準に合わせたパーク運営の効率化を進めていく。
- Q8) マネジメント体制の変更を受け、戦略の考え方やマネジメントスタイルに変更はあるか。
- A8) 変更はない。成長投資はやり切り、価格の考え方も柔軟に検討していく。現在フード本部を担当しており、現場の力を活かすことが経営において非常に大切だと考えているため、これまでの現場を重視するマネジメントスタイルを変えるつもりはない。

以上

注意事項

本資料の記載内容は、決算電話説明会の質疑応答をもとに要約した当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではありません。また今後、予告なしに変更される可能性があります。また、業績見通し等の将来に関する記述は、発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。当社グループの事業は、顧客嗜好・社会情勢・経済情勢等の影響を受けやすい特性を持っているため、本資料で述べられている予測や見通しには、不確実性が含まれていることをご承知おきください。